

Monthly Report

本学OBの亀山耕平選手と岩佐義明ヘッドコーチが東京オリンピック・パラリンピックの凱旋報告のために来学



会場に参加した後輩たちへ大会での様子を話す岩佐HCと亀山選手

東京オリンピックの体操競技種目別あん馬で5位入賞を果たした亀山耕平選手（2010年度卒）と東京パラリンピックの車いすバスケットボール女子チームを6位入賞に導いた岩佐義明ヘッドコーチ（以下、HC）（1979年度卒）が9月21日に来学し、凱旋報告会がおこなわれました。

報告会では朴澤泰治理事長が「二人に共通することは、永年努力を継続してきたこと。今後も活躍を期待しています」と敬意を表し、高橋仁学長からはお祝いの言葉とともに大学オリジナルの日本酒などの記念品が贈呈されました。

大会を振り返り、亀山選手は「多くの方々に支えていただいたことに感謝しています。大会はすごく楽しめました。思い切って演技ができたので悔いはありません」と語り、岩佐HCは「メダルを獲得できなかったことは悔しかったです。これからも車いすバスケットボールをメジャーにするために」と今後の抱負を語りました。

会場には、男子バスケットボール部と体操競技部の後輩たちも参加し、両先輩に対して、大舞台での心境やコロナ渦でどのようにモチベーションを維持したのかなど、積極的に質問がとんでいました。



岩佐義明ヘッドコーチ（1979年度卒）



亀山耕平選手（2010年度卒）

〈 目 次 〉

・本学OBの亀山耕平選手と岩佐義明ヘッドコーチが東京オリンピック・パラリンピックの凱旋報告のために来学	1
・価値ある人間になるために	2
・男子サッカー部2名が来季Jリーガーに来季加入内定、および2021シーズンJFA・Jリーグ特別指定選手に認定 ・佐々木琢磨選手「第4回世界デフ陸上競技選手権大会」男子100M 日本初「銀」の快挙を報告	3
・悲願V届かず男子5位、女子8位／全日本学生体操 ・硬式野球部/秋季リーグ戦開幕2連勝	4
・芝草通信 NO. 29	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 41	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

[仙台大学 広報課](#)

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

初寄稿シリーズ

価値ある人間になるために

小西 志津男 准教授 (2021年4月 着任)

5年前に他界した父は、航空自衛隊の自衛官でした。航空自衛隊というと、東京オリンピック・パラリンピックの展示飛行を行った松島基地のブルーインパルスイメージです。が、父は北海道の襟裳基地・三重県の笠取山基地のレーダーサイトの2カ所に勤務した通信士でした。華やかな曲技飛行のパイロットとは異なり、高い山の頂上で冬には雪が積もるドーム型の薄暗い場所でレーダーの画面を見つめて蛍のような光の点を眺めている通信士は、あまり知られていない職業だと思います。

このような父の仕事の関係で、幼い頃の私の家には無線に関わるガラクタが沢山ありました。何に使う物なのか分からないまま、私は素直にオモチャとして遊んでいました。その一つに電鍵があります。電鍵は、通称米つきバツタといわれるモース符号を発生させる道具です。小さなつまみを下げることで電気信号を手動で断続して、ポーと音が出る楽しいオモチャでした。その後、小学生になると電気製品をバラバラに分解する遊びを楽しむようになりました。当時のテレビは、チャンネルはガチャガチャ回す、映りが悪くなると叩くという時代でした。今と違い、テレビにはブラウン管や真空管が使われていました。三極管と呼ばれる真空管が使われていて、ガラス素材の円筒形で、下にはタコのような針金の足が生えていました。真空管は、ベース電流を流すと淡いオレンジ色の光を発し、長時間使用していると心地よい温かさの熱が発生する、私が大好きなパーツでした。

このような経験と父の職業の影響があったかどうかは不明ですが、高校生の時に私には外航船舶の通信長になりたいという夢をもちました。当時、外航の船舶職員になるためには神戸商船大学への進学のあることを知りました。しかし、私が卒業する年度は共通一次試験元年で、苦手科目がある私には壁の高い5教科7科目となりました。通信長への道は閉ざされ、その後、入学した大学で何に役立つのかも分からずX線結晶解析という未知の世界へと踏み出しました。大学では、ヒ素(As)、リン(P)等を混合した試料を作成し、X線解析装置で分析する研究を行っていました。

大学卒業後は教員として就職し、36年間で小・中・高・特別支援学校の各校種、肢体不自由・病弱・知的障害の障害種、小規模校(へき地校)、分校・分教室勤務とバラエティーに富んだ教員生活を送りました。大学で教育学についてほとんど勉強していない私にとっては、これらの学校現場において直接経験したことすべてが学びとなりました。

私には、理論物理学者アルベルト・アインシュタインの「成功のためではなく、価値ある人間になるために努力せよ。」という言葉が人生の指針としてあります。成功することを終着点とするのではなく、常に経験をとおりて自分がさらに成長できる努力を継続することが大切なのだと理解し、これまでの人生を過ごしてきました。

まだまだ中途半端な私ですが、4月から仙台大学に着任したことで、今後とも価値ある人間になれるように研鑽を積んでいきたいと考えています。



男子サッカー部2名がJリーガーに加入内定、さらに2021シーズンJFA・Jリーグ特別指定選手に認定

この度、来季（2022年シーズン）から男子サッカー部の藤田一途（体育4年）がロアッソ熊本（J3）に、鯉田太陽（体育4年）がカマタマーレ讃岐（J3）に加入がそれぞれ内定しました。

また、今季（2021年シーズン）は日本サッカー協会より「2021年JFA・Jリーグ特別指定選手」として認定され、Jリーグへの試合出場も可能となりました。

今後、2人の活躍が期待されます。

【選手プロフィール】



藤田 一途（ふじた いっと）

- ポジション：MF
- 生年月日：1999年6月30日（22歳）
- 身長/体重：175cm/72kg
- 出身：神奈川県横浜市（神奈川県立荏田高出）
- チーム歴：
あざみ野FC→横浜F・マリノスJr. ユース→横浜F・マリノスユース→仙台大学



鯉田太陽（なまずた たいよう）

- ポジション：MF
- 生年月日：1999年4月13日（22歳）
- 身長/体重：172cm/66kg
- 出身：埼玉県蓮田市（日本体育大学柏高出）
- チーム歴：
FC白岡南→柏レイソルU-12→柏レイソルU-15→柏レイソルU-18→仙台大学

佐々木琢磨選手「第4回世界デフ陸上競技選手権大会」男子100M 日本初「銀」の快挙を報告



左から朴澤泰治理事長、名取英二教授、佐々木琢磨選手、高橋仁学長、八巻芳信同窓会長



手話で結果を報告する佐々木琢磨選手

8月に開催された第4回世界デフ陸上競技選手権大会男子100Mで10秒67（追い風1.6m）をマークし、日本人として同種目初の銀メダルを獲得した佐々木琢磨選手（本学職員・2015年度卒）が、9月28日に本学にて朴澤泰治理事長、高橋仁学長、八巻芳信同窓会長にその活躍ぶりを報告しました。

朴澤泰治理事長は「これまでの努力が今回一つの結果に繋がったと思います。来年5月にブラジルで開催するデフリンピックでは今回の成果をベースに一層の活躍を期待しています」と激励し、高橋仁学長よりお祝いの言葉と記念品が贈呈されました。また、八巻芳信同窓会長より激励金が贈られました。

佐々木琢磨選手は今大会の結果について「世界一になれなかったことは悔しいですが、課題も明確になりました。デフリンピックでは金メダルを取れるように頑張りたい」と更なる飛躍を誓いました。

悲願V届かず男子5位、女子8位／全日本学生体操

体操競技部は9月3、4の両日、全日本学生選手権大会（静岡市・草薙総合運動場体育館）に出場しました。

男子は悲願の初優勝を目指して精鋭を送り込みましたが、全般にミスが目立ち着実に得点を上積みすることができませんでした。総合点は393.225。順大、鹿屋体大、日体大、筑波大に次ぐ5位に甘んじました。

女子は前回7位から一つでも上位に食い込みたいところでしたが、演技の確実性とアピールの点で精彩を欠き、総合点242.196で8位に沈みました。

このほか個人戦の種目別において、男子跳馬で佐々木郁哉（体育1年）が14.866で3位、岩澤将英（体育2年）が14.800で4位に食い込み、女子段違い平行棒では尾藤由夏（体育1年）が13.000で8位と健闘しました。

男女を統括する鈴木良太監督は「選手たちは一生懸命やった。ご苦労さまと言いたい。部を挙げて来年へ向け巻き返す」と総括しました。

緊急事態宣言の中での開催であったため、観客席からの応援は拍手のみ、演技中における指導者からの声掛けも禁じられる異様な雰囲気でした。大会を開催するためにご尽力いただいた関係者の皆さまへ感謝申し上げます。

本学からの出場メンバーは次の通り。

【男子】

- ▷団体 藤井隆元（体育4年）乾鉄平（体育3年）岡田卓海（体育3年）
岩澤将英（体育2年）佐々木郁哉（体育1年）高橋静波（体育1年）
- ▷個人 玉利敦（体育4年）奥平悠太（体育4年）表慎一郎（体育3年）
澤本隆平（体育1年）緒方大騎（体育1年）

【女子】

- ▷団体 社家間楓花（現武4年）富岡こころ（体育3年）社家間由希（運栄2年）
齋藤花音（運栄1年）栄養尾藤由夏（体育1年）渡辺咲心（運栄1年）
 - ▷個人 道倉楓羽花（現武4年）藤本亜祐奈（運栄4年）小椋未希（体育1年）
- <報告：体操競技部>



男子団体出場メンバー



男子個人出場メンバー



女子団体と個人出場メンバー

硬式野球部/秋季リーグ戦開幕2連勝

9月25日に仙台六大学野球秋季リーグが仙台市・東北福祉大学野球場で開幕しました。

今季は新型コロナウイルス感染症の影響から例年より遅れての開催となり、各大学2戦総当たりの勝率制で順位を競います。

硬式野球部は第1節の25、26の両日、宮城教育大学と対戦し1回戦5-0、2回戦9-2（七回コールド勝ち）でいずれも勝利し、連勝スタートしました。

◇1回戦 対 宮城教育大学（5-0）○

仙台大 001010030=5

宮教大 00000000=0

投げては先発の川和田（体育2年）が7回無失点の好投。打線は八回に益子（体育4年）、永長（体育4年）の本塁打で突き放しました。



7回1安打無失点と好投した川和田（体育2年）

◇2回戦 対 宮城教育大学（9-2）○ 七回コールドゲーム

宮教大 0002000=2

仙台大 3210201=9

先発した長久保（体育3年）が6回2失点で今季初勝利。打線は初回に大北（体育4年）、益子（体育4年）の連打で3点を先取すると三回までに6点を奪うなど打線が奮起しました。

大会は10月24日まで続き、選手たちは優勝を目指しチーム一丸となって戦います。引き続き応援よろしくお願ひいたします。

<報告：硬式野球部>



第1戦で本塁打を放った益子（体育4年・写真左）、永長（体育4年）

9月の芝生管理 (ラグビー場) について

ウィンターオーバーシード準備のため、更新作業用機械を用い、芝生面を攪乱しないで耕作することにより、通気を図り土壌の働きを回復させるとともに、サッチの分解を促進し、芝草、芝地の若返りをはかることを更新という。

今回更新作業を実施した、バーチカル作業について紹介します。

バーチカル



写真 1. 作業中

サッチ：芝生の刈草や冬枯れした葉、古い根などが土壌の表層や浅い部分に堆積して層をなしたもの。



写真 2. 作業後



写真 3. 作業後

深さの調整



写真 4. 作業後

バーチカルの深さ 約4cm

※ウィンターオーバーシード

冬に冬眠して枯れてしまう暖地型芝の上から冬も緑を保つように寒地型芝の種をまいて1年中緑にすること。

(9月29日 記)

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 41

担当：今野 桜 助手

夏休みが開け、高校生にとっての9月は秋の大会に向けての追い込みの時期でした。負ければ3年生は引退、新人チームで挑む初めての大会、など部活動によって置かれている状況は様々ですが、6月の高校総体と同様、9月・10月に行われる各部活動の大会は1年の中でも最も大事な大会の一つです。

私は9月18~20日に行われた宮城県高等学校女子サッカー選手権大会に帯同させていただきました。女子サッカー部の3年生にとっては、今回の大会で2位以上にならないとすれば高校生として出場できる最後の公式試合でした。今年の高校3年生は昨年から続くコロナ禍で、高校生活の半分以上がいままで通り練習できない日々となりました。しかし、私はそんな状況でも個人やチームの目標のために日々努力してきた姿を見ていたので、今回の大会ではその成果を発揮してほしいと思っていました。結果は惜しくも第3位で、東北大会出場は果たせませんでした。大会中に特に大きな怪我が発生しなかったことに少しホッとしつつも、もう少し長い間3学年全員で戦ってほしかった、と思う気持ちもあります。大会前の怪我により痛みを我慢して試合に出場した生徒や、当日に体調を崩してしまった生徒がいてチームは万全な状態ではなかったのですが、そういった生徒が少しでも減り今後の大会で自分たちのプレーが思う存分発揮できるように、ATとしてのサポートをしていきたいと思います。

10月にも各部活動が大会を控えており、いつもに増して緊張感が伝わってきます。この時期に起こる怪我や体調不良は今後の大会に大きく影響してくるので、なるべく未然に防ぐこと、そして悪化しないようにすることに気をつけながら生徒達への指導をしていきたいと思います。

最近気温が低くなり日が暮れるのも早くなりました。6時頃には明仙フィールドは真っ暗です。暗く寒い中で練習は視界が悪いので人と人、もしくは人と物との衝突による事故が起きやすいです。日が暮れるのが早い秋から冬の時期は、そういったところにも注意して生徒たちの安全を守れるように活動していきたいと思います。